

講演会「脱炭素革命の衝撃」

化石燃料からの投資撤退。
世界のビジネスルールが
変わる。お金の流れが変わ
る。再エネへの転換が進ま
ない日本は？

テーマ1 : 「本当は深刻な地球温暖化の現状」～自然界からの叫び～

講師 : 地球温暖化防止コミュニケーター Kaz Tada氏

テーマ2 : 「脱炭素に向けて動き出した世界」～COP23より～

講師 : 弁護士 早川光俊氏

日時 : 3月31日(土) 13:15~16:00

(受付開始12:45)

場所 : 北コミュニティセンター

参加費 : 無料 定員 : 60名 (先着順)

早川光俊氏

地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)の結成に参加。1996年のCOP2からCOPに参加。CASA専務理事、自然エネルギー市民の会(PARA)事務局長。弁護士。

Kaz Tada氏

環境省主催のコンテスト「藤岡弘 地球温暖化防止道場」でオリジナル曲佳作入賞。音楽を通じたエコの普及啓発をする。「エコ=他者への思いやりの心」をテーマに「エコステックシンガー」として活躍中。

＜市民エネルギー生駒による生駒市民共同発電所事業＞

2016年度 新エネ大賞 新エネルギー財団会長賞/第4回グッドライフアワード 環境大臣賞 優秀賞 **ダブル受賞**

講演会 主催 : 一般社団法人 市民エネルギー生駒 <〒630-0141 生駒市北田原町1548番地1>

お問い合わせ : Tel・Fax 0743-79-0475 (橋木 19時~22時) メール simin-e@kcn.jp

「市民エネルギー生駒の会」入会のご案内

○会費無料 ○各種案内送付 ○主催行事への参加費無料 ○お申込・問い合わせ : メール simin-e@kcn.jp

市民共同発電所 2カ所目が完成

生駒で通電式

市民らが出資してソーラーパネルを設置した「市民共同発電所」が生駒市に完成し、5日、通電式があった。小紫雅史・同市長らが顔をみせた。



16(H28).3.6 朝日新聞

2014年3月にてきた1号機に続く2カ所目。3月末には、3カ所目の完成も予定されている。

市民らでつくる一般社団法人「市民エネルギー生駒」（楠正志代表理事）が運営する。市内の介護老人保健施設の敷地内に約50平方メートルのソーラーパネルを設置した。

発電した電気を今後20年間、電力会社に売る。出資呼びかけに応じた市民らに、配当を上乗せして出資分を返していく方針だ。

（小出七貴）

新聞記事に見る 「市民エネルギー生駒」 の活動

設備機器など 生駒市に寄贈

市民出資の法人

再生エネルギーの普及を目指す生駒市の一般社団法人「市民エネルギー生駒」は、太陽光発電の収益を活用し、発電設備の機器などを市に寄贈した。



小紫市長（右から4人目）に目録を渡した「市民エネルギー生駒」のメンバー（生駒市役所で）

再生エネルギーの普及を目指す生駒市の一般社団法人「市民エネルギー生駒」は、太陽光発電の収益を活用し、発電設備の機器などを市に寄贈した。法人は市民の全額出資で、市内の介護老人保健施設に3号機（1800万円）を完成させた。市に寄贈したのは、南こども園の園名を書いた強化プラスチック製パネル（縦1.3メートル、横1.1メートル）と老人施設の発電に必要な電力変換器。小紫雅史市長に目録を手渡した楠正志・理事長（64）は「2年間の実績が信用につながった。売電価格の低下で厳しくなるが、市民の力を生かしていきたい」と話した。

読売新聞
16(H28).4.13

太陽光発電 市民エネルギー生駒 運営・地域貢献でダブル受賞

市民の出資で太陽光発電に取り組む生駒市の「市民エネルギー生駒」が、環境



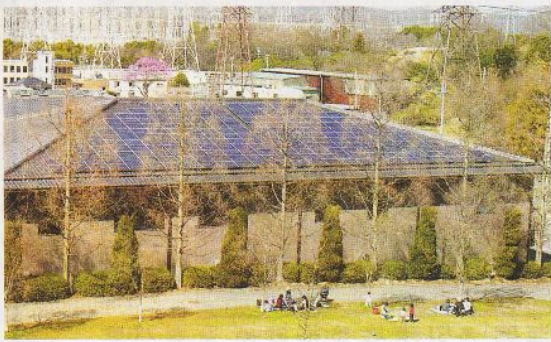
省と、一般財団法人・新エネルギー財団からダブルで表彰を受けた。助成金や金融機関に頼らない運営、地域への貢献などが評価された。23日、小紫雅史市長に受賞を報告した。2014年以降、市民から計5600万円の出資を募り、公共施設の屋上などに太陽光パネル3基（出力計167キロワット）を設置。売電収益をこども園や高齢者施設に寄付している。「環境と社会によい暮らし」の取り組みを表彰する

環境省の第4回グッドライフアワードでは、2位にあたる「環境大臣賞優秀賞」に輝いた。さらに、新エネルギーの導入・普及をすすめた企業や団体に贈られる新エネルギー大賞（経済産業省後援）で、3位にあたる「新エネルギー財団会長賞」に選ばれた。

収益を積極的に地域にかえし、シニアのメンバーが現役時代の知識や技術をうまく生かしていることも、ほかの手法になると評価された。

メンバーは、市北部で4基目を計画 중이다。楠正志理事長（66）は「日本のモデルになるような活動を、生駒から発信していければ」と話した。（栗田優美）

朝日新聞 17(H29).2.24



生駒

一般社団法人「市民エネルギー生駒」（楠正志・代表理事）の「市民共同発電所1号機」が、生駒市北田原町の市衛生処理場「エコパーク21」の屋根に設置された。写真。全額市民出資による県内初の太陽光発電所で、年約190万円の売電収入を見込む。

再生可能エネルギーの普及が目的で、法人は2013年10月に設立。事業費1700万

市民全額出資の太陽光発電 県内初

円は市民出資（1口10万円）で170口で賄った。「よりの多くの人に出資してもらおう」と個人、団体とも2口までを原則とし、84者が出資した。生駒市民の出資額が全体の約8割を占めている。

南向きの屋根を中心にパネル273枚を設置しており、発電出力は約50キロワット。3月28日に現地で行われた完成式があり、楠代表理事や山下真市長らが完成を祝った。（熊谷仁志）

14(H26)4.1 毎日新聞



「市民エネルギー生駒」が設置した市民共同発電所4号機「生駒市高山町」

いこま市民パワー 公共施設へ電力

生駒市などが出資する地域エネルギー会社「いこま市民パワー」が、今月から公共施設への電力供給を始めた。同社に参画し、市民の出資で太陽光発電に取り組む一般社団法人の4カ所目となる市民共同発電所が完成し、5日に通電式があった。ここで発電した電気は同社が買い取る。

いこま市民パワーの電力の供給先は、小中学校や家庭への供給を目指す。社長の小紫雅史市長は「名実ともに『市民と一緒につくる電力会社』にしていきたい」と話した。

「市民エネ」太陽光発電所4号機完成

防署など53施設。電気料金などは、これまでの契約先と同額に設定した。同社は市や大阪ガスなどが出資し、7月に設立。市内の太陽光発電などで調達した電力を市内で使う「エネルギーの地産地消」を目指す。

2019年度には一般家庭への供給を目指す。社長

い」と話した。一般社団法人「市民エネルギー生駒」の発電所4号機は、学研高山地区に完成した。出力は50キロワットで、これまでの分と合わせると約200キロワットになる。楠正志代表理事は「再生可能エネルギーの比率拡大に貢献したい」と話した。（筒井次郎）

朝日新聞
17(H29).12.9